SSH NEWS 2026.　第30号

# SSH NEWS

未知に、挑もう。

神奈川県立横須賀高等学校

## SSH News Scope vol. 6 ～ニュースから探究を始めよう～

今年度から不定期で、SSH委員が気になるニュースを新聞やネット記事などから見つけて皆さまにお伝えします。身近な「なぜ」から探究は始まります。日々のニュースには科学や社会について考えるきっかけがたくさんあります。皆さんもニュースをきっかけに「なぜ」を見つけて一緒に考えてみませんか。
vol. 6は**２年２組　吉越　千織**さんからお届けします！

## ナッツが卵を上回る日

日本では近年、クルミやカシューナッツなどナッツ類の食物アレルギーが急増し、最多の鶏卵アレルギーに迫る勢いである。2023年の調査では鶏卵26.7%、ナッツ類24.6%と僅差で、2026年の調査ではナッツ類が1位になる可能性が高いとされる。ナッツ類は加工食品にも広く使われるため、食品表示の見直しが進み、2023年にはクルミ、2025年にはカシューナッツが義務化されるなど、特定原材料は9品目に拡大した。ナッツ類アレルギーは自然寛解しにくく重症化しやすい点が特徴で、鶏卵・牛乳・小麦では約8割が乳児期から学齢期までに自然に治るのに対し、ナッツ類は自然寛解が約1割にとどまる 。治療では少量摂取で慣らす経口免疫療法が研究段階で進められ、アナフィラキシーを緩和する点鼻薬も承認された。また、ゲノム編集でアレルゲンを除去した卵の開発も進むなど、対策が広がっている。食物アレルギーでは，少しずつ食べて慣らす「経口免疫療法」が研究段階の治療法として実施されているほか、アナフィラキシーショックを緩和する点鼻スプレーも承認された。ゲノム編集によってアレルゲンを除去した鶏卵の開発も進んでいる。




日経サイエンス 2026　3月号(42～46ページ)より抜粋

この記事を読み、ナッツ類アレルギーが日本で急増している現状に強い危機感を覚えた。特に、アレルギーの代表格ともいうべき鶏卵アレルギーに迫るほどナッツ類の割合が増えているという調査結果は衝撃的だった。ナッツはお菓子や調味料など多くの加工食品に含まれており、知らないうちに摂取してしまう危険があることもポイントだと感じた。更に、ナッツ類アレルギーは自然に治りにくく、重い症状が出やすいという特徴があるため、学校や日常生活でも周囲の理解と注意が欠かせない。食品表示の義務化が進んでいることは心強いが、鶏卵や小麦などの7品目に加えて2023年にはナッツ類の中でも最多のクルミが表示推奨から表示義務に格上げされた。もし周りの友人がナッツ類のアレルギー症状を持っていたら、食べ物を扱う場面で慎重に行動する必要がある。もちろんナッツ以外であっても配慮は欠かせない。一方で、治療薬の開発も進んでいる。アナフィラキシーショックに対応するための新たなスプレーが日本でも承認される。私たちは、周囲の人がアナフィラキシーショックを発症した際に正しく対処するため、治療薬の使用法に関する知識を持っておくと安心だ。

**２年２組　吉越　千織**

**【プロフィール】**



吉越　千織さん
Principiaでは1年次から横須賀市自然・人文博物館に所属し、「この礫の故事来歴～小原台砂礫層の歴史を岩石薄片から探る～」を研究。今年度は1年次の研究を発展させ、「葉山層群　地質学的歴史の解明」について研究している。昨年度末には横須賀市文化会館で行われた「みんなの理科フェスティバル」で、ポスター発表を行うなど、積極的に活動中！
※発表したポスターは、C棟2階廊下に掲示しています。